

# 「私の災害体験談(9.12豪雨災害)」

岐阜市在住 Oさん 55歳 女性

あれからもう、30年になりました。

当地は、東に伊自良川、西に板屋川に囲まれた地域で、豪雨や台風のために低い水田地帯は、水の浸水するところと、主人から聞いていました。9月8日からの豪雨で、当時休耕田を利用してサボテンを栽培していましたが、サボテンをビニールハウスの中の高いところへ移動しました。ところが、どんどん水位が上昇してハウスは冠水。道路も冠水。通行不能になり、今度ははなれの引っ越しになりました。

結婚して3年目。生後1年4ヶ月の長男と生後11ヶ月の長女をかかえての作業は表現できないくらい大変でした。離れから母屋へ嫁入り道具の移動です。タンスから引き出しを引き出し、母屋の一階へ運ぶ作業です。主人は36年6月集中豪雨水害の時、最高で母屋の土台までだから、増えても50センチくらいと言いながら。もちろん畳を机の上に上げてからの作業です。水位はどんどん上がり道路から離れも浸水となりました。二階から見ると水田地帯は一面海のようになり、11日午後1時30分、伊自良川右岸堤が石谷地区で決壊。当地区は決壊場所から離れているため、濁流ではありませんが、少しずつ増えつづけました。道路は冠水。救助のボートが行き来しました。今度は一階から二階への移動作業です。養魚場の鯉や魚は逃げ出し、養豚の豚、養鶏のニワトリも一緒になり大変でした。夜は停電。暗闇の中で、食料も少なくなる中での増水は不気味で、今思い出しながらぞーっとします。

12日長良川右岸堤が決壊。その後減水となりました。もちろん家屋、家具の清掃は大変でしたが、親類の暖かい協力と励ましで回復しました。水没し泥水に浸かり腐ってゆくサボテンに茫然としましたが、主人の「天災だからやむをえない、がんばろう」の一言でサボテン栽培も復旧しました。

最高水位は、母屋で床上50センチメートル、離れで床上1.2メートルとなり、36年水害より1メートル増水の結果となり、わが家の柱には、今でも水害のあとが残っています。